

不屈の多羅尾氏

時勢を読む力で激動の時代を生き残る

多羅尾氏は中世に信楽南部、現在の多羅尾、小川周辺に勢力を張った武士で、当地は「信楽荘」と呼ばれる近衛家の荘園でした。

戦国時代の終わり頃、多羅尾光吉・光俊父子の時代に勢力を広げ、当初は近江守護の六角氏の被官として活躍しました。永禄11年（1568）に六角氏が没落すると、いち早く織田信長の被官となり、天正9年（1581）の伊賀攻めでは多羅尾口から伊賀へ攻め込むなど数々の武功をあげ、本能寺の変に際しては堺に滞在していた徳川家康の三河帰還（いわゆる神君伊賀越え）に多大な功績をあげました。

豊臣秀吉の時期には近江でも有力な大名に成長し、豊臣秀次とも縁戚関係をもつなど、順調な発展を遂げ

ていきましたが、文禄4年（1595）に秀次が切腹させられた件に連座して多羅尾氏は改易処分を受け、大名としては終焉を迎えます。

しかし、時代が移り、徳川家康が覇権を握ると、神君伊賀越えの功績が認められ、慶長3年（1598）に光俊と子である光太が1500石の旗本として取り立てられ、慶長5年（1600）に光太が信楽に帰還し、幕府の信楽代官として任命されました。以降、江戸時代においても、幾度もお家取りつぶしの危機がありましたが、世襲代官として明治維新まで代官職を務めます。幾度も存続の危機に直面しながら再起を図る姿は激動の時代を生きた当時の武士の生きざまを物語っています。

代官所が置かれた場所には現在も石垣や庭園などが残され、春季と秋季には一般公開をしています。紅葉の季節に多羅尾氏ゆかりの地を訪ねてみませんか。

多羅尾代官陣屋跡（一般公開中）
公開期間 11月30日（月）まで

▲多羅尾代官陣屋跡

問 歴史文化財課 埋蔵文化財係 ☎ 69-2250 ☎ 69-2293

どうする？ わが家のこれから

空き家にしないためのヒント



空き家の
お手入れをしよう！

家は人が住まなくなるとすぐに傷んでしまいます。今回は、空き家の日頃のお手入れ方法をお伝えします。

お手入れ方法

月に1回～2回以上、空き家の様子を見に行き、次のお手入れを実施しましょう！

- ★通水…数分間、水道の水を出しっぱなしにする
- ★風通し…家中の窓を開けて、30分から1時間、風を入れる
- ★郵便ポストのチェック
- ★外壁、屋根瓦などの状態チェック
- ★庭の草木の刈り取りなど



（時間が取れない方にオススメ！） JAの空き家管理サービス

空き家の管理にお困りの方には、月に1回空き家の管理を依頼できるJAこうかの「空き家・空き地の巡回管理サービス」がオススメです。管理だけでなく、草刈り単体の作業などについても相談できますので、ぜひご活用ください。

※本サービスは甲賀市のふるさと納税のメニューにもなっています。



問 JAこうか 総務課（資産相談担当） ☎ 62-2182

問 住宅建築課 空家対策係 ☎ 69-2214 ☎ 63-4601



20年後の社会は、地域における支え合いの基盤となっていた地縁・血縁・社縁といった繋がりが弱くなると言われています。このコラムではそんな未来を見据え、地域の困りごとを住民主体で受け止めていく「芽吹き」とも言える活動を紹介いたします。

地域で見守る、こどもたちの放課後～放課後子ども教室「さんみゃ」～

甲南町の宮地区自治振興会では、今年4月から放課後子ども教室「さんみゃ」を開設しています。小学校低学年の子どもたちが宿題をしたり、遊んだりしながら、上級生の下校を待つことができる居場所です。

放課後子ども教室

さんみゃ

活動のきっかけ

低学年の子どもだけで下校することへの不安や、「兄弟姉妹と一緒に帰ってきてほしい」という保護者の声から活動が始まりました。小学校に隣接する自治振興会の事務所を活用し、地域で子どもたちを見守っています。

未来につながる活動

「さんみゃ」は、地域支援員をはじめ、地域の皆さんの支えで運営されています。夏休みにも開所し、子どもたちが友だちと過ごせる居場所になりました。“地域の困りごとを地域で受け止め、みんなで子どもたちを見守る。”そんな支え合いの輪が「さんみゃ」から広がっています。



問 地域共生社会推進課 地域共生社会推進係 ☎ 69-2155 ☎ 63-4085
市民活動推進課 市民活動推進係 ☎ 69-2218 ☎ 63-4085